

警備の中を静肅に通じ抜け長田の神域に集合せり、午前七時半賀川氏が仲を飛ばして馳せつくるを見たる一同は一齊に同氏を取り巻き雪崩れを作り、萬歳を絶叫して湊川一角の天地爲に震撼す

境内に入れる賀川、久留南氏並に争議團幹部野倉、井上、灘、川島其他數氏は何れも奉獻燈籠中際立ちて巨大なる一基に上り、脱帽して迎へる波の如き職工團に對して遠路集合の勞苦を痛ひし後賀川氏指揮の許に労働歌を三唱す、一萬の労働者の聲は長田の森に反響し高く夏空を衝きたり。聽て中村柴田、石橋二氏の悲痛なる演説石燈籠上に始められ「今まで行ひ來りし合理的運動は頑迷無智の資本家と横暴飽くなき官憲によつて破られ狂態の度を増さしめられた。吾々は最早言論以外の方法に依つて最後の勝利を得なくてはならぬかも知れない。戦ひに當つて吾々は神に祈念する。敬虔なる祈りを捧げて天地大靈の御庇護を乞ふものである。元寇の役、執權時宗は神に念じて神風を得た。神は冥々裡に吾等を加護し給ふ事疑ひない」と交々陳べ終り、野倉方治氏は萬餘職工が敬虔なる默禱中に既記祈願文を高らかに奉讀し、滿庭肅として咳の聲だになく、森嚴の氣境内を壓す。

斯くて君が代二回合唱の後兩陛下の萬歳、労働者の萬歳を唱へ參拜の式を終り同八時廿分電正會を先頭に境内を出發、労働歌を高唱しつゝ五番町四番町を経て神戸盲啞學校西横より兵電軌道に移り更に水木一丁目より大開通の大路を通過し聚樂館前に出づ。同所よりは労働歌、罷工破りの歌を廢してワツシヨウの懸聲をかけたつゝ、一萬餘の職工が駆け足にて電氣局横まで來たれるが川崎本社方面に向

ひて進む危機を漸くに外らして、多開通裏に廻り九時十五分楠社に入り労働歌三唱、野倉氏神馬像前に立ちて祈願文を捧げ柴田、賀川兩氏の注意演説、君が代合唱終りて九時四十分無事解散したり。

尙此日川崎造船所にては再び左の如き大廣告を各新聞紙に掲載せり。

再び神戸市民各位に謹告す

去る二十一日本紙を藉りて各位に謹告仕候通り弊社は従業員平素の誠實勤勉に信頼致候が去る二十三日本社、兵庫、葦合各工場職工聯合代表者と稱するものと會社代表者との會見に於て右所謂職工代表者より總同盟罷工の聲明を爲したるに拘らず休日明けの二十五日より豫定通り工場を開き従業員各自が其の自由意思に依り自己本来の職務に復歸すべき機會を提供したるに其の結果は本社、兵庫、葦合工場を通じて始業第一日の二十五日には二千八百八十九名、第二日の二十六日には四千〇四十八名、第三日の二十七日には六千九十三名、第四日の二十八日には六千八百四十五名の就業者を見、日一日増加の趨勢を示し居候此等の人々は謂ふ迄もなく凡べて各自の自由意志に依り他の煽動脅迫を排して出場せるものにして決して彼の罷業團なるもの、唱ふるが如き卑怯なる裏切り者に非らず之を過ぐる四日間の間成積に徴し其の日々の増加率に看るも少數者の煽動脅威が是等従業員の意思を壓迫したるものにして罷業其のものが職工全體の意思に非らざることを明らかに證明致すものと存候。

然るに一方罷業團の指導者及び一部の職工は尙舊に唱道したる工場管理の企劃を抛棄せざるもの、如く假とへ今日其の主張する所のものが如何なる理由に據りてか當初に於て主張せし所に比し殆んど別個の感ある迄に糊塗され居るとは言へ荷も我國法の嚴存する限り會社の承諾せざる委員の手に於て管理すること自體が到底其の實現を許されざるは勿論敢て之を行ふ事が重大なる犯罪たるは謂ふ迄もなく工場には其の所有主あり、管理者あり、其の權利と能力とは法律上自ら明白なる所にして決して彼等の所謂單純に利益を會社に提供するが故に差向へなしとするが如き利益不利益の問題には無之當然法律上許すべからざる性質のものたる事明白に有之候。

前述の如く従業員中の一部は已に工場に復歸し雄々しく其の職務に精勵能な候而して他の殘餘の従業員も日ならず其同僚と共に彼等自らの誇とする自家本来の業務に復歸すべきを確信して疑はざる次第に有之候終りに臨み弊社は市民各位に對し重ねて陳謝の意